

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200544		
法人名	株式会社 宇宙SORA		
事業所名	グループホーム ハーモニーみずほ (1F)		
所在地	静岡県駿河区みずほ2丁目5-8		
自己評価作成日	平成24年2月8日	評価結果市町村受理日	平成24年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2294200544&SC](http://aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2294200544&SC)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成24年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者ひとり一人と向き合って笑顔をみだし、全員に言葉を交わす。昔の大家族を目指し、世代が違えば喧嘩もあります。考え方が違えば、いさかきもあります。だけど、ひとつのまとまりの中で、ホームの人もそういう暮らしをして欲しいと思う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

やや交通量の多い道路に面しているが、建物のなかは大変静かで穏やかな時間が流れている。一方で、「メリハリのあるリズムをもった生活をしましょう」ということも事業所の方針としてあり、1階は玄関ベンチでの外気浴、2階はラジオ体操が定着してきている。朝出勤したとき、夕帰宅するとき、一人ひとりの利用者に声をかけることを職員に奨励していて、今ではほぼ全員の職員の習慣になっている。また、日々職員がつける「介護記録」と「介護計画」も連動できていて、職員がプランに基づいた的確なケアサービスを実践していることが書面でも確認でき、利用者への気配り・目配り・心配りがあることも視認した。管理者とともに職員が朗らかで働きができる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「家族の和を基とし 常に互いを尊敬 感謝する心を持ち 共に学び、共に支え、共に歩む」を居間や食堂に掲示し、毎朝申し送りの時に職員で唱和し、実践に繋がられるよう努めている。	日頃のケアサービスなど家族からの質問に、具体的かつ明瞭に説明できる職員の姿を垣間見るたびに、浸透していることを管理者は感じているという。調査時も職員の関わる様から実践を視認した。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ホームで発行しているハーモニー新聞を、回覧版でホームの状況を知らせている。地域で開催する祭りや運動会・盆踊り等、参加、近隣の方々と気軽に挨拶ができる。	町内会長のもとに何度か足を運び、現在ではハーモニー新聞を回覧板に挟み込んでもらえるまでに関係を築けている。また、町内会の中でお買い物や外食をすることも積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の回覧版などで、ホームの状況をお知らせしている。ホームでのバーベキュー・花火大会等に案内し、参加して頂く理解・協力を得られるよう心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開き、施設の運営状況の報告し、意見交換の場を設け、会議での意見をサービス向上に活かしている。	多少前後することはあってもおおよそ2ヶ月に1度の開催ができています。市、包括、町内会長、民生委員、家族の参加を得ているが、家族の参加者数が少ないことが課題である。	年間計画(日程)を立てる、参加できなかった人に議事録を届ける、勉強会や試食会などと兼ねるなど、参加者が増える工夫を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて連絡を取り合い、実情等を伝え、時にはアドバイスを受けている。	運営推進会議には2回に1回程度参加してもらえていて、事業所を理解しようとしてくれていることが窺える。事業所も市が主催する研修会には必ず参加し、情報の共有化に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束しないケアを基本原則としている。日常的なケアの中でスピーチロックや行動制限等、身体拘束にあたるか否かについてミーティングで話し合い、職員全体で啓発する機会を確保している。	年1回程度外部の身体拘束排除研修への参加を法人本部で呼び掛けてくれていて、参加した職員が事業所内で解説することが恒例となっている。スピーチロック的な言い方については管理者も気になっていて、月1回のミーティングで繰り返し振り返る機会をつくっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護の場面で職員間で虐待に当たるかあたらぬか検討しながら、対応している。長時間の車椅子に座位で過ごす→ソファへ移乗		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護や成年後見制度を利用している利用者がホームに入所しているが、内容について理解していない職員もあり、もっと詳しく知り学ぶ必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	統括及び管理者が家族に会い、不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得の上で契約している。解約についても同様。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との日常的な会話を通じ、意見・要望をくみ取るよう努力している。 家族には家族会・運営推進会議時、意見や要望などを伝えられるよう支援し、サービス向上に反映されている。	1ヶ月に1度「身体状況」の報告を定期するほか、随時電話を入れていて、事業所から関わりを持つよう努めている。年3回の家族会では意見交換の場というより、井戸端会議のように和気藹々としているという話からも、信頼関係が築かれていることが感じられる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング等で管理者や職員間で話し合い、そこで出た意見を運営に反映させている。	事業所内で解決できることは管理者が、また運営などについては法人本部に窓口があり、職員は直接進言することができる。課題や不満はあっても、利用者に寄り添う気持ちからうまく浄化させ、一つにまとめることができていると管理者は感じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるよう現場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会、講習会への積極的な参加を推進している。 その報告をミーティングの際、他職員にも報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は交流の機会はあると思われるが、職員が同業者と交流する機会がなく意見交換ができていない。サービスを向上させるためにも良い点は導入していきたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族を含め統括・管理者・介護支援専門員共に面談し、本人の希望を聞き出し安心して過ごしていただけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	統括・管理者・介護支援専門員が家族より話しを聞き助言、アドバイスし不安を取り除き、関係を作り深め、要望にそっていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の際、家族が遠慮することなく、必要としている事を聞き出し、本人本意のサービスができるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時には、認知症であるという概念は捨て、人生の先輩であるその人を尊重し、家族のような関係を築いていくよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会を開き、和気みちた話し合いをしている。面会にみえた時など、本人・家族・職員も加わり現況を知らせている。イベントを行う時など、手続きや電話で参加していただけるよう伝え、本人も楽しんでいただけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人や場所との関係は途切れがちである。本人より聞き出し、思い出の場所など時には行けるよう努力していきたい。	墓参や外食などでは家族の協力を得ていて、在宅時から馴染みの新聞をとっている人や理髪店に通う人もいる。友人や知り合いの訪問も家族の了解を得て受け入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係作りやその人にあった、関わり合いができるよう、常に職員が間に入り支援している。 問題が起こりそうな時は、察知できるよう目配り気配りに努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの内容に利用者もそれなりに努力されている為、契約が終了しても今までどおり継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとり一人の思いも違う為に、一年を通し、順に思いが叶うように努力している。思いの中に、帰宅願望があるが、楽しさで忘れるよう、これからも努力していきたい。	日々の様子やそこからの気づきを「介護記録」に記載していて、より現在に近い状況把握に努めており、また家族にも届け情報共有している。年度初めには今年の抱負を聴きとり、利用者の想いを職員が掲示していて、弾みのある言葉からは生きる意欲が伝わってくる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	毎日の生活の中からの話しや、散歩などの時等、ご本人がお話してくださる時を見逃さなく、生活歴をお聞きするようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	おひとりお一人の一日の過ごし方を把握し、喜んでいただける会話等に努力している。心身状態はその都度変わるので、その度、医師に相談している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1か月に一度のミーティングの度に、モニタリングを行い、職員の意見を出し合い計画を作成している。	日々の記録である「介護記録」と職員のカンファレンスから計画作成担当者(管理者とケアマネージャーが各階兼務)がプラン化している。「介護記録」と「介護計画」が連動できていて、職員がプランに基づいた的確なケアサービスを実践していることが確認された。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子で目立った行動・言動等は職員が責任を持って介護記録に記入している。目立った事は、朝の申し送りの時に職員に伝えるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎月、身体状況などチェックを行っている。少しでも変化があるようなら、管理者・介護支援専門員・他職員でその場に合ったサービスを考えなおしている。外出の希望がある場合はできるだけ対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭事等、参加に努めている。 施設通信を通してこちらの情報を伝えているが、協働までは至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム提携医、月2回の往診。相談できる体制の中、適切な医療を受けられるよう支援している。 家族の希望で他受診したいと考える入居者は希望病院へ受診している。	24時間対応の協力医が月2回、看護師が週1回来訪しており、医療連携が整っていて安心の体制にある。専門医には家族に付き添ってもらっていて、口頭で得た情報を職員が記録し個人ファイルに一元化している。また、食後の投薬についても的確な職員の対応を視認している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の変化に気づいたら、ナースファイルに記入し、訪看の際見てもらうようにしている。 緊急を要するときは直接電話をし、連絡・相談し適切な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院直前の体調の変化など詳細に明記し、又口頭で伝えている。 退院後、職員はサマリーをよく読み退院後のケアに努めている。不安な点がある時は、病院・提携医・訪看に連絡指示を仰いでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化し、終末期のあり方については、体調不良の機会等に家族の意見を伺い話し合っている。 良い終末期を迎えるようチーム支援している。	医療行為が必要がなければ事業所として看取りに取り組む考えでいて、これまでも経験がある。家族、協力医、看護師、事業所がよく話し合うことで協力関係をつくっていくことを旨としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は定期的に行っていない。 応急手当や初期対応については、時々目を通すようにし、職員同士口頭で確認したり、看護師にアドバイスを受けている。 提携医、24時間対応。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を実施し(年2回)避難経路や通報システムの確認を行っている。 地域住民への声かけも行っているが、参加までには至っていない。 町内の防災訓練にも参加し、協力依頼もしている。	近所の皆さんが事業所の訓練に参加することは叶っていないが、地域の防災訓練には利用者6名とともに職員が参加している。事業所の防災訓練には消防署の協力も得ていて、段ボールを使った2階からの避難方法などの指導ももらえている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個人のの人となりを見極めたうえ、その人にあった声かけをしている。	なるべく「チャン」づけはやめようという考えでいるが、入居時にどのように呼ばれたいか確認して本人本位としている。また、各居室はそれぞれの家として、入退室に配慮するよう職員に指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の話をよく聞き、希望に沿えるような助言ができるよう、努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に追われ気配りが出来ない事があるが、日々、個々のペースで過ごせるように支援できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者個人のその人らしい服装。個人が楽に暮らせる服を着ていただいています。汚れた時は着替え、清潔を保持している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個人の好みに合うよう、味付けにも工夫している。 無理強いせず、片付けもして頂く。	法人本部の栄養士によるメニューがあり、2日に1度食材が業者から届いていて、調理は職員が作っている。おしぼりたたみ、茶碗洗いなど希望があれば利用者もできることを手伝っている。イベントとして外食も月1回程度おこなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューに基づき、食事作りをしている。毎回の食事量・水分摂取量をチェック表に記入し、摂取量の少ない方については、職員で話し合い対策を立てている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、朝夕の歯みがきは必ずやっている。 義歯の方は預かり食べかすを落とし、洗浄剤で消毒している。必要に応じて、スポンジブラシも使用している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認し、時間を見ながら声かけをし、トイレ誘導している。 本人より訴えがあった時は、時間にかかわらずトイレ誘導する。便意が感じられない方には、腹部マッサージ等を行っている。	トイレは広くゆったりとしていて、消耗品などが置かれていないことが特徴的である。プライバシー保護への配慮もあり居室に消耗品を備えていて、そのことから職員が余裕をもった対応をしていることが窺える。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳・飲むヨーグルト等、飲んで頂いている。水分量についても気をつけ、不足していると思われる方には、多めに摂っていただいている。 食事作り、便通よくなるメニューを取り入れている。 毎日 排泄チェック表を確認している。便秘		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべく希望に沿うように入浴して頂いている。身体の安全面などを考慮し、利用者に危険がないよう、心がけている。 入浴しがらない方には、声かけなども工夫し、週2回は入ってもらうように色々試行している。	おおよそ2日に1度は入ってもらうようシフトを組み、毎日湯をはっているため、希望があれば毎日入ることができる。湯船に浸かりほぐれた気持ちを職員に語ったり、歌を唄ったりなどして、ゆったりとした時間を過ごしてもらっているという。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、居室で横になつたり休息されているのを、本人の考えや健康面を考え臨機応変に対応している。車椅子の方などは、時間により休んで頂き、臀部の減圧も考慮している。 本人の希望に沿うような形で居室へ戻り就寝して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬情報に目を通し理解するようにしている。変更があった場合、申し送りや連絡ノートで通知するようにしている。疑問に思った時は、閲読できるようにしており、看護師・提携医・調剤薬局と連絡が取れるしている。誤薬・飲み忘れがないよう、見守りや介助しチェック表に記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	タバコを吸われる人、好きな歌手のビデオを観る人など、ひとり一人が好きなように時間を過ごせるようにしている。 毎月のイベントでは、季節に応じた催し物を行い、皆さんが笑顔になるようにしている。ひとり一人が自分が好きな事が出来るよう、色々工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	月毎に1回ほどイベントを行い、近隣のお店を利用したり、遠い所に出かけている。 家族が近所の方々には出来るだけ参加いただけるよう、連絡し参加していただいている。また、日中の散歩と一緒に行く事している。	戸外にでることを位置づけていて、天候や体調などの事情で散歩に出掛けられない場合は玄関先のベンチで外気浴している。イベントとして花見やドライブにも月2回程度取り組んでいて、お弁当をもって出掛けることもある。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失や物取られ妄想などのトラブルの原因になる為、大金は所持していない。 家族・後見人の了承のもと、ごぶかいとして事業所が預かり金庫に保管している。欲しい物があつた時、職員と一緒に買い物に出かけたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で電話したりするという事はほぼ無いが、そのような希望がある時は、その相手の方や家族の了承を得て電話することは可能である。手紙を書く方はほとんどないが、本人の手書きで出すようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間となる場所は清潔に保ち、明るくしている。不安な気持ちが生じないように、常に職員が近くにいる状態をつくっている。 ボードや壁にその日の季節を感じられる物を飾ったり、作ったり会話したりできるようにしている。	毎月貼り替えるという季節の貼り絵や思い出の写真から、「生活に楽しみを」との職員の想いが伝わってくる。玄関には、面会の家族が分かり易いように本日の日勤や夜勤者が一目でわかるよう表示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングやダイニングで会話したり、デスクスペースに出たりしている。ひとり一人が居心地良く感じられる場所を見つけていただき、そこで他の方々と一緒に何かを製作したり、会話したりできるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する時、今まで使用していたお気に入りの物や大事にしている物を持ってきて欲しいとお願ひしている。 仏壇・人形・写真、本人が手作りした壁飾りなど居室に置いている。	木目調のチェストとベッドが備え付けられているが、配置は好みで替えているため、居室毎にその人らしさがでている。テレビや仏壇など馴染みのものが持ち込まれ、また思い出の品もあり、住む場所が異なっても家族とともにあることが視える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現在、持っているレベルを落とさないよう必要以上の支援にならないよう努めている。 見守りで助言などしながら自立生活の支援を目指している。		